

子豚の哺乳行動と発育の関係

畜産試験場

豚は1回に多くの子豚を分娩して子育てする家畜ですが、豚の乳汁は常に出るわけではなく授乳時ごとに数分間だけ出ます。そのため、母豚は授乳時に独特の鳴き声で子豚を呼び、子豚はその声を聞くと眠っていても飛び起きてタイミングを逃さず全頭が一斉に哺乳します。出生直後の子豚は歩行もままならない状態ですが、母豚の体の周囲を回りながら乳頭を探し当てて必死で哺乳します。また、哺乳時以外はぐったりしている子豚でも哺乳時にはかなりの活力で他の子豚と乳頭を奪い合います。各子豚が吸入する乳頭は生後3日程度で決定し混乱は少なくなります。生時体重が大きく強い子豚は乳汁が良く出る乳頭を確保して順調に発育し、生時体重が小さく弱い子豚は条件の悪い乳頭しか確保できず、発育も遅れることとなります。このように子豚は生まれた瞬間から厳しい生存競争にさらされ、生時体重と強さの差を逆転することは困難です。これらのことから、より多くの子豚を順調に発育させるには、子豚の生時体重のバラツキを減らすとともに母豚の乳頭数以上の子豚が生まれた場合の哺育技術などが必要と考えられます。

畜産試験場では昨年9月の豚熱発生を受け、防疫強化のための豚舎整備を実施するため試験研究を中断しています。整備完了後には、母豚1頭あたりの肥育豚出荷頭数増加のため、授乳期母豚の飼料給与技術、哺乳期子豚の発育改善と損耗防止技術などに取り組む予定です。



哺乳中の子豚

担当者	保科 和夫	電話番号	0263-52-1188
-----	-------	------	--------------

[試験場ニュースへ](#)